

【資料4】

# 中山間地域ふるさと事業 について

---

埼玉県農林部  
農業ビジネス支援課

# 中山間地域ふるさと事業とは

- ◆ 中山間地域が有する多面的機能の発揮と、地域住民活動の活性化を目的とする。
- ◆ 中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱（農林水産省）に基づき、都道府県に基金を設置。埼玉県の積立額は6億9千万円。
- ◆ 事業主体は都道府県。
- ◆ 運用益と基金を取り崩して事業費としている。令和2年度当初予算額は約14,123千円。

# 事業の構成

## 1 調査研究事業

(令和元年度事業費：10,134 千円) (令和2年度予算額：12,163千円)

- ・地域住民活動の活性化に係るワークショップ等の実施
- ・集落営農を確立するための新たな生産技術や鳥獣害対策の調査研究

## 2 研修事業

(令和元年度事業費：143千円) (令和2年度予算額：300千円)

- ・地域活性化に必要なリーダーとなる人材を育成するための研修会の実施

## 3 啓発推進事業

(令和元年度事業費：787千円) (令和2年度予算額：1,660千円)

- ・中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動の実施

# コンサルタントによる支援

企業に委託して実施  
1地区あたり200万  
円を上限とする。

(令和元年度事業費 : 4,064千円)

(令和元年度予算額 : 4,000千円)

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

## 小鹿野町 (H30~R1) 株式会社ワールド・ビジネス・アソシエイツ



- 小鹿野町産カボスの販売方法検討による販路拡大とカボスが地域に浸透するように町内飲食店や旅館業等と連携し、カボスを使用した新メニューを開発した。
- カボスを活用するイベントとして「黄金の栗祭」を開催した。
- 恒久的組織として「実行委員会」を組成した。

## 越生町 (R1) 株式会社ワールド・ビジネス・アソシエイツ



- 越生町の特産物である「うめ」や「ゆず」を活用した地域活性化に向けた取組を行った。
- 主に関係者へのヒアリング調査と生産者、加工業者、レジャー施設、観光業など業界横断的なワークショップでの意見交換、計画策定を実施した。

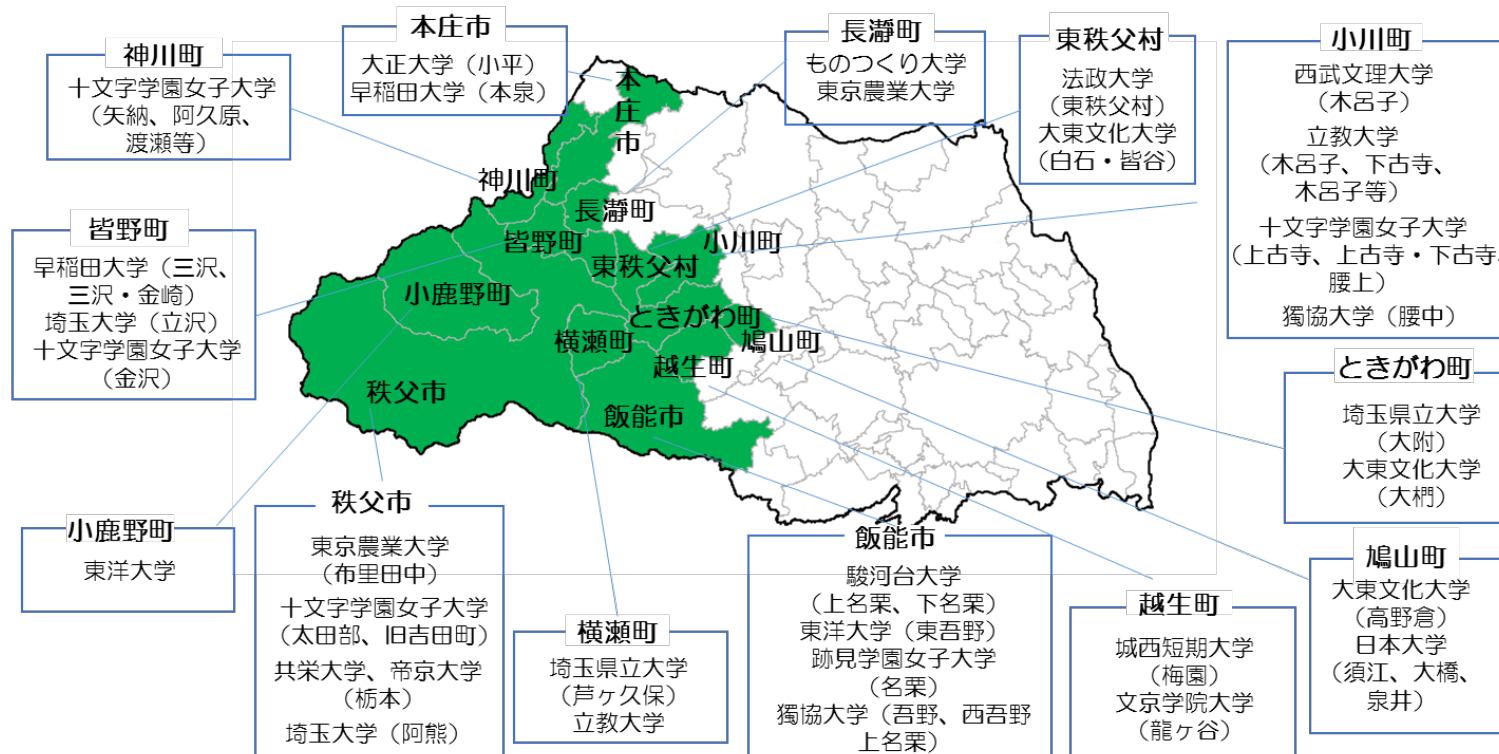
## 令和2年度の実施状況

- ◆ 2年目を終えた小鹿野町は事業終了。
- ◆ 越生町ではうめやゆずを活用した地域活性化に向けて2年目の支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、実施を見合わせている。

# ふるさと支援隊による支援

(令和元年度事業費 : 5,438千円)  
(令和2年度予算額 : 6,800千円)

大学生等の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の活性化を図る。平成22年度から延べ43支援隊が活動している。



大学に委託して実施  
1 地区あたり50万円  
(継続地区は40万円) を上限とする。

令和元年度の実施状況  
・計12支援隊が活動  
(内訳)  
継続8支援隊  
新規4支援隊

# 1 調査研究事業 (2) 住民活動支援

## ふるさと支援隊の活動 (R 1)

	大学名	市町村	対象集落	活動テーマ	責任者	継続/新規							
1	立教大学	小川町	原川、笠原、鞠負、木部、勝呂、木呂子、増尾、飯田	「自分ごと」として地域活性化を考える	空閑 厚樹	継続4年目	7	十文字学園女子大学	神川町 本庄市	渡瀬、下阿久原、上阿久原、矢納 本庄市全域	農業と地域資源を生かしたグリーンツーリズムの試み	星野 敦子	継続2年目
2	ものづくり大学	長瀬町	全域	長瀬町の観光に関する地域住民と来訪者のイメージギャップの可視化による観光資源活用方策の最適化	田尻 要	継続4年目	8	十文字学園女子大学	皆野町	金沢	地域文化の発見と交流 ～皆野町金沢地区における学生による工夫と創造～	狩野 浩二	継続2年目
3	早稲田大学	皆野町	三沢 金崎	多世代・多文化交流を基盤とした祭りによる地域活性化と健康創成	扇原 淳	継続3年目	9	東京農業大学	長瀬町	全域	地域の自然と向き合ってきた知恵の再発見	関岡 東生 山下 詠子	新規1年目
4	獨協大学	飯能市	西吾野	観光・地域資源の活用と支援並びに保存活動	高松 和幸	継続3年目	10	東洋大学	小鹿野町	全域	小鹿野町における地域資源を活かした観光ルートの企画	志摩 憲寿	新規1年目
5	駿河台大学	飯能市	下名栗	Hanno Happy Woody Project -木材を有効活用して観光まちづくり-	平井 純子	継続2年目	11	獨協大学	飯能市	上名栗	治山治水活動を通じたエコツーリズムによる地域振興	大竹 伸郎	新規1年目
6	立教大学	横瀬町	全域	若者参加による地域のにぎわいづくり	舩谷 鋭	継続2年目	12	日本大学	鳩山町	須江、大橋、泉井	地元農産品・観光資源による地域内活性化と都市部との人的交流推進	川出 真清	新規1年目

## 令和2年度の状況

- ◆ 令和2年度は予算上、新規4支援隊・継続10支援隊で実施を想定
- ◆ 新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言をふまえ、新規地区の募集については今年度は実施しない
- ◆ 継続地区については現地とオンライン上での打ち合わせや活動地域をPRするための動画作成の費用の負担等での事業実施を検討中



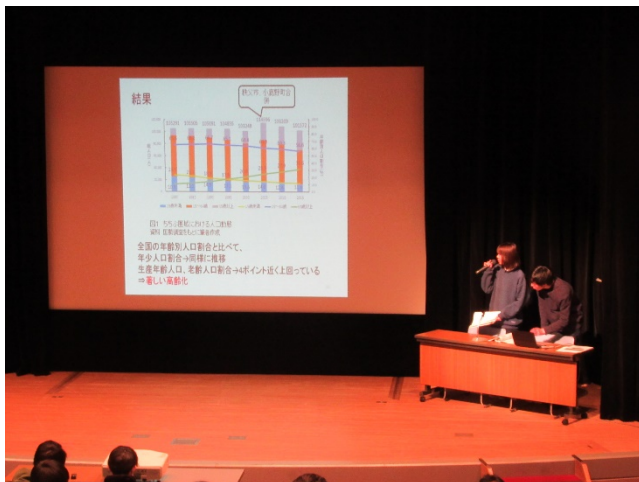
# ふるさと支援隊の交流



## 「ふるさと支援隊」交流会（令和元年8月7日開催）

他の支援隊の活動内容を知り、活動の悩み等を解決し、今後の活動に活かすことを目的に開催。

各支援隊のこれまでの活動内容や今後の活動スケジュールについて報告し、意見交換会を実施した。



## 「ふるさと支援隊」活動報告会（令和2年2月7日開催）

年度における活動の集大成として活動報告会を開催。

支援隊だけでなく、地域の方、市町村職員にも出席していただき、ふるさと支援隊の活動内容を周知することにもつながっている。

# 県農業技術研究センター等による支援

(令和元年度事業費 : 632千円)

(令和2年度予算額 : 1,013千円)

集落全体で取り組むべき新たな生産技術や鳥獣害対策等の調査研究を行い、農業生産の維持・拡大による中山間地域の活性化を図る。



## 鳥獣被害防止対策推進事業 (700千円)

- ニホンザルの効果的被害対策の解明
- 新たな被害防止技術(柵)の開発
- 多獣種の被害を防ぐ安易で簡易な被害防止柵の開発普及
- 被害防止対策の啓発活動



## 秩父地域の風土を活かした茶の製造法の確立 (560千円) R2:302千円

- 天候に左右されない紅茶萎凋技術の確立
- ティーポット用緑茶一煎パックの開発
- 紅茶品質の評価をする求評会の実施

# ふるさとリーダー研修

(令和元年度事業費 : 143千円)

(令和2年度予算額 : 300千円)

中山間地域の活性化の推進及び助言等を行う人材を育成する。



<H30> 参加人数 : 25 名  
「地域活性化のための農泊事業を考える」  
合同会社クライム 代表 金澤 三紀 氏

- ・農泊事業の概要
- ・農泊による地域活性化の取組について紹介 (埼玉県滑川町)



<R1> 参加人数 : 14 名  
「埼玉における新しいグリーンツーリズムの提案」  
埼玉県グリーン・ツーリズム推進協議会 理事長 毛塚 宏 氏

- ・埼玉県の大消費地に近く、自然が多い特徴を活かしたツーリズム (埼玉型グリーン・ツーリズム) の構築について説明。
- ・グループワークによる意見交換

# 中山間地域における取組の広報

(令和元年度事業費 : 2,030千円)

(令和2年度予算額 : 1,660千円)

中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動を実施する。

## 各種イベントでのP R活動

< R 1 >

- J R 浦和駅において中山間地域の観光農業をP R
- 県庁オープンデーにて中山間地域の観光農業をP R
- 彩の国食と農林業ドリームフェスタにおいて埼玉県の中山間地域の農業をP R



## 広報誌の配付

中山間地域の農村の魅力や活性化の取組を紹介する情報誌『新・田舎人』を配布

※ 年4回配布(6月、9月、12月、3月)

